1998. 2. 10

The Japan Academy of Midwifery Newsletter NO. 25

日本助産学会ニュースレター

発行所　日本助産学会
〒102-0071
東京都千代田区富士見1-8-21
東京都助産婦会館内
電話 FAX 03-3221-0417
代表者　近藤潤子

埼玉県の助産婦活動と私

埼玉県立衛生短期大学
小田切　房　子

先日、本「ニュースレター」の担当者から、埼玉県での助産婦活動を報告してほしいとの依頼を受けた。これを機会に、改めて自分の行動をそのこととの関連で振り返ってみた。

私は埼玉県立の助産婦養成機関で助産婦教育に携わるようになって２０年近くになる。最初は100％自校の学生の助産婦基礎教育のみで、卒業生や県内の助産婦と交流を持ち共に学習する機会などは全く持っていなかった。そのような状況が長い間続いた。それが、今は助産婦会や医師会、行政との連携の下で活動を展開するようになっている。

そこで、今回いただいたテーマ「埼玉県の助産婦活動」について、私自身の関わりの経緯を通して紹介させていただきたいと思う。

私が助産婦の卒後学習に関与し始めたのは、平成４年に発足した「うぶ声会」に関わるようになってからである。

「うぶ声会」は実習病院の助産婦の発案で誕生し、主に病院勤務助産婦を中心にした自主的な学習会（年５回）である。会の主旨は「助産婦本来の役割について自由に語り合い、充実した仕事を望む助産婦仲間の会」に置いている。今年は発足６年目を迎え、２月に会として初めて、県民へのサービスと助産婦のＰＲ、親睦を兼ねて、うぶ声フェスティバルを開く予定になっている。

平成５年、私は突然、日本助産婦会の教育委員をおおせつかり、そのことがきっかけで日本助産婦会の会員となった。そして、中央での教育計画に参画する機会を得た。

平成6年・7年は埼玉県でうぶ声会を、日本助産婦会で教育委員を務め、教育委員の活動を通して出会った講師をうぶ声会に招くなど、中央での活動を埼玉県に活用させていただいた。

平成８年、また、突然日本助産婦会埼玉県支部より理事にとの要請があり引き受ける状況となった。当時、地域保健法の改正に伴い地域で活動できる助産婦が求められていた。そこで、助産婦会として、県の母子保健係にアプローチし、埼玉県との共催で母子訪問指導者講習会を開催した。定員オーバーの盛況ぶりに、地域での活動を希望する助産婦の存在の多さを実感した。

平成９年、母子訪問指導者講習会終了後、助産婦活動の在り方について語る中で、意気投合し盛り上がった助産婦たちは「きよう会」を発足させた。「きよう会」は主として開業とフリーの助産婦が中心となり、助産婦会と連携を持ちながら、助産婦会の実践部隊の性質も有し、地域にどのように助産婦活動を浸透させて行くかを活動目標に、毎月集まっている。ちなみに、会の名称は定例会が木曜日であること、助産婦の起用を期待して、埼玉弁で「行ってみよう」を「行ってきよう」ということに由来している。きよう会はすぐ、埼玉県の助産婦活動の実態調査を手掛け、それを基盤に現在、出産情報誌「埼玉県のお産ガイド」の作成に取り組んでいる。

平成９年の助産婦会総会には若い年齢層の助産婦の参加者が増え、会の活動内容が分かるような総会の運びが実現し、医師や行政官など、来賓の方々に助産婦会に対する認識を深めていただく機会となったようである。

同年、個人的に、産婦人科医会より「欧米

におけるお産事情と助産婦活動」をテーマに講演を依頼された。また、埼玉県母性衛生学会で、「きよう会」のメンバーが「埼玉県の地域における助産婦活動の実態調査」を報告した。

このことがきっかけとなり、平成１０年、年明け早々、学会会長より、学会の運営について、助産婦の積極的な参画を要請された。

以上、埼玉県の助産婦活動について、私自身のかかわりを通して見てみたが、平成４年以降、確実にその活動を充実・発展させて来ている経緯を実感することができた。

その背景となる状況を考えてみるに、最近急増している、育児ノイローゼや乳幼児虐待、学校でのいじめ・暴力などのルーツをたどる中で、助産婦の役割の重要性が見直され、助産婦への要望・期待が高まって来ていることが挙げられるが、それと共に、助産婦自身も、自らの責務を認識し、仲間と共に行動化に結び付けて来た部分が大きいと思われる。すなわち、自立した仕事がしたい、自他（助産婦と妊産婦・女性・その家族）共に満足につながる仕事がしたいと願う助産婦たちの熱い思いが、助産婦活動の活性化の原動力になっていると思う。

長く埼玉県で助産婦教育に携わって来た事から得られる利点を活用して、これからも助産婦仲間と共に活動を続けて行きたいと思う。

母子保健・助産婦教育・助産婦業務に関連する諸般の動向

1. 平成９年12月25日に、厚生省より「平成10年度母子保健対策予算（案）」が示されました。

事　　項	９年度予算額	10年度予定	差引増△減	摘　　要
生涯を通じた女性の健康支援	36,444 千円	49,096 千円	12,652 千円	女性健康支援事業 • か所数 10か所→10か所 不妊専門相談センター事業 • か所数 10か所→10か所
母子保健訪問指導事業	401,833	0	△401,833	• 一般財源化
こどもの心の健康つくり対策	120,916	146,013	25,097	• か所数 71か所→71か所 • 事業内容 心の健康づくり推進費 出産母子生活支援事業 虐待・いじめ対策支援事業
産後ケア事業	(296,472)	(297,528)	(1,056)	育児等健康支援事業のメニュー（厚生保険特別会計児童手当勘定）

＊母子保健訪問指導事業が一般財源化したことは、各市町村の裁量に任されることで、助産婦が対象に効果的な指導を行うことにより助産婦の訪問指導料が確保できることになります。

＊こどもの心の健康づくり対策では、事業内容に出産母子生活支援事業が含まれ、この領域でも助産婦の活動が期待されております。

＊産後ケア事業は、平成10年度は1,056,000円増加され、この事業にも助産所での産後ケア活動が期待されております。

2. 看護研究研修センターでは平成10年度より、看護教員養成課程助産婦養成所教員専攻の教育と、保健婦養成所教員専攻の教育は隔年毎に行うよう決定し、平成10年度は保健婦養成所教員専攻の教育を休学し、平成11年度は助産婦養成所教員専攻が休学することです。

3. 全国保健センター連合会発行の「Manthly 保健センター」1998.1号に、厚生省保健医療局地域保健・健康増進栄養課長、高原亮治氏、厚生省老人保健福祉局保健課長、松谷有希雄氏、厚生省児童家庭母子保健課長、小田清一氏の三者による、新春鼎談「自治体としての市町村保健サービスの実施を期待」が掲載されました。小田課長の母子保健事業に関する発言を転載させて戴きます。

「この機会に触れたいのですが、これまでは地域保健の中でマンパワーとして市町村保健婦しか述べられてこなかったのですが、市町村のスタッフにはほとんど助産婦さんがいません。母子保健事業そのものは必要に応じて助産婦会とか個別の助産婦さんを雇い上げて実施しているのですが、例えば10人の保健婦が配属されているなら、その内何人かの職員は助産婦であってもいいんじゃないか、一般的に言って専門的に母子保健を実施するには助産婦が入っていた方がよいのではないか、歴史的に助産婦さんが行政の中に取り込まれてこなかったために保健婦が代わって実施してきたという面も相当あるのではないか、と思うのです。ですから、できるだけ多くの市町村あるいは都道府県に、助産婦さんを採用していただきたいと申し上げたいのです」。

と、助産婦職にとってはありがたく、建設的な発言をして下さいました。この期待に応えられるよう、助産婦職が一丸になって地域母子保健活動に取り組む諸準備を、教育・実践の両面から行わなければならないと痛感しております。

4. 1998年2月20日(金)～21日(土)にインドニューデリー市で開催されるＩCM第５回アジア太平洋地域会議には、助産学会代表として、近藤潤子理事長と加藤尚美監事が出席いたします。

（文責　平澤）

❋❋❋❋❋❋❋ 第10回日本助産学ワークショップの報告 ❋❋❋❋❋❋❋❋❋

日本助産学会理事長　近　藤　潤　子
学術振興委員長　竹　内　美恵子

全体テーマ“助産学研究の実際”

▼プログラム

受け付け　9:00
オリエンテーション　9:40
開会　理事長あいさつ　9:55
基調講演　10:00－11:00　助産学研究の動向
近藤　潤子　日本助産学会理事長
ワークショップ　11:00－15:30
自己紹介と参加の動機
現在の研究上の課題
実践における問題や課題の明確化と研究課題
(1) 助産学研究の基礎　コーディネーター　塩野　悦子（宮城大学看護学部）
(2) 質問紙の開発に関する研究　〃　岸田　佐智（高知女子大学家政学部）
(3) セルフケアを用いての実践研究　〃　竹内美恵子（徳島大学医療技術短期大学部）
全体会議　15:40－16:00

▼実施報告

1. 参加者：基調講演 18名、ワークショップ 11名
2. 評　価：近藤理事長とともに全員参加のワークショップを行った。

参加者には高い満足度が得られたが、参加者が少なく、会員の少ない地区でのワークショップは、参加者や企画を検討する必要がある。

ICMからの便り

1998年「国際助産婦の日」の標語と活動方針が送られてきました。

国際助産婦の日

1998年5月5日

THE MIDWIFE AS THE KEY HEALTH PROVIDER for SAFER MOTHERHOOD

テーマ：助産婦は妊産婦に安全を提供する第一人者

健康な女性たちは

もっと健康になるための情報を提供し、
家族計画（希望する間隔で希望の人数の子どもを生むこと）へ助言し、
妊娠中のケアを提供し、
定期的な健康チェックでリスクのないことを確かめ、
妊娠、分娩中に異常が生じた際に必要（不可欠）な産科医療へ橋わたしができる。

助産婦を必要としており、

健康な子どもたちは

出産直後の新生児への熟練したケア
出産後早くからの母乳哺育
感染の予防と手当て
予防接種と適切な栄養を　必要とし

健康な国民は

政府が国際的機関と共に
誰でもが地域社会で基本的なヘルスケアを受けられることを国が保障し、
国民が安全に母となることを目差す国としての行動計画を実行に移し、
教育と法律によって助産婦を強化することを　必要としている。

International Confederation of Midwives

国際助産婦連盟・ロンドン

1998年国際助産婦の日

▼助産婦は妊産婦に安全を提供する第一人者

今年のテーマは「助産婦は母性に安全を提供する第一人者」。国際助産婦連盟（ICM）は世界の助産婦協会に対し、社会における助産婦固有の役割に光を当て、政府や国際機関に対しては次のことを強く求めるものである。

- 安全なケアを提供する上で訓練された助産婦の供給における不均衡を認識し、助産婦の役割と地位を強化し、助産婦が世界中の女性に関わっていることを明らかにする。
- 訓練された助産婦により妊娠、出産のケアが受けられるよう、女性の基本的権利を高める政策、法律を実施する。
- 妊産婦や新生児の死亡、障害を減らすために、国の母性の安全提唱を作成する。

女性の妊娠、出産、産褥期に、助産婦は必要な管理、ケア、助言をすることができる。このケアには健康の増進、予防的手段、母子の異常な状況の発見、医療補助の獲得、医療支援がない場合の緊急的手段の実施が含まれる。

この10年間の悲劇は、世界中で60万人以上の女性が死に続け、さらに500万人の女性が妊娠にまつわる病気や出産で一生の障害を抱えていることである。これら不必要な死亡や障害の多くは開発途上国で発生し、そこでは女性の半数が助産婦の介助なしで出産していることが知られている。女性が助産婦の援助を求められるところでは、女性の妊娠の結果も非常に向上していることが示されている。

国際助産婦の日は、政治や社会が女性や出産の状況に関心を高めるよう、また助産婦が妊産婦、新生児の死亡、障害の減少に役立っていることを認識してもらうよう、1991年5月に誕生した。以降、毎年、世界中の助産婦協会により祝われている。

(注) 国際助産婦連盟は、母性の安全提唱（1987年、WHOにより着手された、2000年までに妊産婦の死亡率と疾病率を半減させる運動）を支援し、活動している第一の非政府団体（NGO）である。

〈南天〉

第24回 ICMオスロ大会開会式のビデオとCD発売のお知らせ

ー生命の樹－第24回ICM大会の精神をいつまでも生き生きとー

1996年ICMオスロ大会の開会式のハイライトがビデオカセットになりました。また、開会式で演じられた“生命の樹を求めて”からの歌の数々がCDになりました。音楽はオリジナルで、この世界の助産婦の集会のために特別に作曲されたものです。演説は編集されていますが、劇の要素は専門の音楽家により収録されています。

このビデオの売り上げは、“スポンサー　ア　ミッドワイフ”へ
CDの売り上げは、“セーフ　マザーフッド基金”へ贈られて、開発途上国の助産婦を力づけることを通じて、世界中の母子の健康を守ることに役立てられます。

オスロへ行った方にはオスロの思い出に、オスロに行けなかった方にもこのビデオによってあのオスロでの1週間の高揚を頒つことができます。
助産婦のお友達へのギフトに、同時にもっと多くの途上国の助産婦たちに、ICM 大会に参加の機会を提供しようではありませんか。

ビデオは、1時間20分　150ノルウエー　クローネ、梱包と送料は65Nクローネ
CDは、約 40 分　100ノルウエー　クローネ、同38Nクローネ
ビデオとCD一緒の梱包と送料も65Nクローネです。

支払い先　The Norwegian Association of Midwives
銀行名　Postsparebanken Oslo支店
口座番号　0804-5481221　　（銀行で手続きをして下さい）

▼申し込み書（下記の様式）の送付先　　（送金したら下の申込書を郵送して下さい）
The Norwegian Association of Midwives
Tolllbugaten 35, N-0157 OSLO Norway

---------- き　り　と　り　線 ----------

Order Form for 24th ICM VIDEO/CD

Name（申込者名・ローマ字）：

Address（送付先・ローマ字）：

Country（国名）：JAPAN

☐ Videos(s)（ビデオ）　　Format：NTSC（日本の録画方式）
☐ CD(s)　　（☐内に注文数を記入する）

ICMセーフマザーフッド（母性保健）基金の募金の御礼

ニュースレター22.23.24号を通して会員の皆様に標記の基金をお願い致し、昨年12月末で締め切らせて戴きました基金は81名と3団体の方々から568口、568,000円の募金を戴きました。助産学会の目標が35万円以上でしたので基金運用目的を理解してお送り下さいました会員の皆様のご好意に心から厚く御礼申し上げます。1月に近藤理事長より、ICM本部に全額送金されましたことを報告致します。

▼募金をして下さいました方々の団体名と氏名を掲示いたします（順不同）。

徳島県国際助産婦の日記念事業促進会
代表　髙橋幸子
愛知県国際助産婦の日第6回集会実行委員会　代表　鈴木玲子
徳島県国際助産婦の日記念事業促進会
代表　横山佳代子
髙田昌代
めぐみ助産院　田島恵子
むなかた助産院　賀久はつ
森口和美
内藤和美
松岡恵
川中洋子
小田切房子
森洋子
西久保レイ子
斉藤育子
行田智子
土岐初恵
新道幸恵
古賀章子
中田映子
木村ます
毛利多恵子
佐藤志げ子
岡野真規代
田淵紀子
峰岸まや子
白河せつ子
岸田佐智
坂本明美

大井けい子
正木助産院　正木喜代子
菅沼美奈子
河児真美
内山和美
中島操子
唐沢泉
鹿児島県助産婦会
宮中文子
中野ともの
沖野幸
瀬井房子
吉永靖子
髙橋清子
名取初美
吐山ムツコ
岩本美佐子
森川久美子
川原淳子
稲垣恵美
富安俊子
佐々木和子
神谷鞠子
柴田真理子
藤本栄子
川上幸子
田邊美智子
杵渕恵美子

近藤潤子
園田絵里
髙橋つや子
久川洋子
多賀佳子
小木曽みよ子
藤田八千代
多賀琳子
青木康子
松本八重子
竹内美恵子
平澤美恵子
岡本喜代子
加藤尚美
浅生愛子
宮里和子
田中千登世
宮岡久子
佐久間早苗
丸山知子
島田真理恵
村山郁子
谷口通英
森川勝絵
湯本敦子
立山サナミ
山下浩子
筒井敬子

Japan Academy of Midwifery

第12回日本助産学会学術集会のご案内（第3報）

学術集会会長　平　澤　美恵子

第12回日本助産学会学術集会は、個々の助産婦が助産実践の中で、時代の求めるニーズに自律して対応していけることを祈念して「助産婦の自律へのチャレンジ－教育・実践・研究を通して－」をメインテーマで開催いたします。このメインテーマに即して、特別講演、シンポジウム、ワークショップを行いますので、大勢の皆様の学術集会へのご参加をお待ちいたしております。

1. 期　　日　　1998年3月20日(金)～21日(土)
2. 会　　場　　シェーンバッハ・サボー：砂防会館（東京都千代田区平河町2－7－5）
3. プログラム概要

第1日目　3月20日(金)　12:40～17:00

1）会長講演　「助産婦に期待される専門能力と教育のあり方」
　産長：丸山　知子（札幌医科大学）
　演者：平澤美恵子（日本赤十字看護大学）

2）特別講演　「実践の中で変革を起こすには！」
　座長：近藤　潤子（天使女子短期大学）
　演者：猪口　邦子（上智大学）

3）シンポジウム：テーマ“助産業務の自律をめざして”
　座長：宵木　康子（川崎市立看護短期大学）
　　松岡　　恵（東京医科歯科大学）
　演者：①研究者の視点から　堀内　成子（聖路加看護大学）
　　②実践者の視点から　岡本喜代子（日本助産婦会）
　　③行政の視点から　小田　清一（厚生省児童家庭母子保健課）
　　④教育者の視点から　梶田　叡一（京都大学高等教育システム開発センター）

第2日目　3月21日(土)　9:00～16:30

1）ワークショップ

テーマ①　助産婦のケアの評価
　座長：加納　尚美（茨城県立医療大学）
　演者：藤本　栄子（聖隷クリストファー看護大学）
　　野口　真弓（長野県看護大学）
　　小野　紀子（愛育病院）

テーマ②　助産婦の持つべき実践能力と責任範囲
　座長：斎藤　京子（聖路加国際病院）
　演者：村上　睦子（日本赤十字社医療センター）
　　江角二三子（深谷赤十字病院）
　　髙橋美恵子（矢崎産婦人科医院）

テーマ③　実践技法の改善への取り組み
　座長：園生　陽子（聖母女子短期大学）
　演者：中根　直子（日本赤十字社医療センター）
　　瀬井　房子（ベビーヘルシー美蕾）
　　岩木　宏子（長崎県立医療技術短期大学部）

テーマ④　施設内バースセンター開設への方略
　座長：毛利多恵子（毛利助産所）
　演者：小竹久美子（まつしま産婦人科小児科医院）
　　浅野水器子（徳島大学医学部付属病院）
　　下地　亮子（賛育会病院）

テーマ⑤　地域母子保健活動参入への方略

座長：今関　節子　（群馬大学）

演者：鈴木せい子　（鈴木助産院）

西　幸江他　（聖バルナバ病院・助産婦学院）

森本　幸子　（高知県立総合看護専門学校）

八木橋香津代（スズキ病院）

2）一般演題発表：口演、示説（ポスターセッション・ビデオセッション）

4. 日程概要

3月20日(金)

9:20	11:00	12:40	13:30	15:00	17:00	17:30	19:30
理事会・評議員会	受付	会長講演	特別講演	シンポジウム		懇親会	

3月21日(土)

8:30	9:00	11:30	12:30	13:40	16:40
受付	ワークショップ	昼食	総会	一般口演・示説 一般口演33題・ポスター11題 ビデオ1題	

5. 参加費について

1）学術集会参加費

① 会　員　：　9,000円

② 非会員　：10,000円

③ 学生（但し大学院生は除く）：　4,000円

2）懇親会参加費：8,000円

▼学術集会には、本学会に入会されていない方や、助産婦学生の方も参加できます。参加ご希望の方は、郵便局にてお振り込み下さい。尚、2月28日で、郵便振込での参加申し込みは終了させていただきますが、当日参加も可能ですので、多数の方々のご参加をお待ち申しております。　＊振込先：郵便振込口座番号　00170－0－399594

加入者名　日本助産学会第12回学術集会

6. 会場へのご案内

シェーンバッハ・サボー（砂防会館）

東京都千代田区平河町2－7－5

TEL 03－3261－8386

交通のご案内

地下鉄／有楽町線・半蔵門線

永田町駅下車4番出口（徒歩1分）

JR線／中央線・総武線

四谷駅下車（徒歩15分）

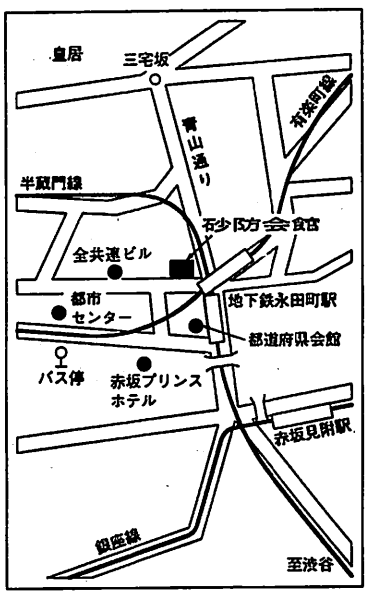
タクシー／四谷駅から5分

東京駅・新橋駅から10分

都バス／新橋駅・新大久保駅から「橋63」

平河町2丁目

都市センターホール前下車（徒歩2分）



【連絡先】

〒150-0012

東京都渋谷区広尾4－1－3　日本赤十字看護大学

第12回日本助産学会学術集会　事務局　TEL／FAX 03－3409－5486

第12回日本助産学会総会開催のお知らせ

会 員 各 位

第12回日本助産学会総会を下記の通り開催いたします。万障お繰りあわせのうえご出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会理事長　近 藤 潤 子

1. 日　時：1998年3月21日(土) 12時30分～13時20分

2. 場　所：シェーンバッハ・サボー　1階会場（木曽）
東京都千代田区平河町２－７－５

3. プログラム：1）平成９年度活動報告、収支決算報告
2）平成10年度事業計画、収支予算案審議
3）その他

＊当日は、12時20分迄に指定された学会員席に着席して下さい。

＊当日受付に学会本部のコーナーを設けて、平成10年度の会費を受付し、入会案内の配布など致します。ご利用下さい。

第12回評議員会開催のお知らせ

評 議 員 各 位

第12回評議員会を下記の通り開催いたします。多事他端の折りではありますがご出席下さいますよう、ご案内いたします。

日本助産学会理事長　近 藤 潤 子

1. 日　時：1998年3月20日(金) 11時00分～12時20分

2. 場　所：シェーンバッハ・サボー　3階会議室（六甲）
東京都千代田区平河町２－７－５

3. プログラム：1）平成９年度活動報告、収支決算報告
2）平成10年度事業計画、収支予算案審議
3）第14回日本助産学会学術集会会長選出
4）総会開催と提案事項について

平成10年1月18日

会　員　各　位

日本助産学会選挙管理委員会

日本助産学会評議員および理事・監事選挙告示

下記のとおり評議員および理事・監事選挙が実施されます。
投票用紙は、各選挙人の連絡先に、事務局から直接お送りしますので、送付される所定の用紙を使って指定の期日までに投票してください。

Ⅰ　評議員選挙

1. 選挙人および被選挙人
   (1) 平成10年6月30日までに会費納入者名簿の普通会員を選挙人とします。
   (2) 被選挙人は、入会年度を含めて3年以上経過した普通会員とします。
2. 選挙の実施および方法
   (1) 選挙は地区別に行います。（選挙・被選挙権を有する普通会員は、本人の意思に基づき、職場または居住地のいづれかを、選挙・被選挙希望地区として登録することができます。）
   (2) 地区別は、北海道、東北、関東（東京を除く）・甲信越、東京、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の8地区単位に選出します。
   (3) 投票締切　平成10年10月25日（当日消印有効）
   (4) 投票用紙送付場所
   〒102-0071　東京都千代田区富士見1-8-21 東京都助産婦会館　3階
   日本助産学会選挙管理委員会
   (5) 開　票　平成10年10年31日　午前10時より
   (6) 開票場所　(4)と同じ
   (7) 投　票　(イ) 投票は無記名とし、各所属地区の評議員数を連記します。被選挙人名簿を見て、正しい氏名を記入して下さい。
   (ロ) 投票用紙は本委員会所定のものを用い、かつ同封の封筒を用いて郵送して下さい。（内封筒は無記名、外封筒は住所氏名を記入して下さい。外封筒に住所・氏名のないものは無効とします）他の用紙による投票は無効となります。
3. 当選人の決定
   (1) 地区別にその有効投票の最多数を得た者から順次当選人とします。
   (2) 同じ得票数の者が2人以上のときは、委員長が抽選で当選人を決定します。
   (3) 当選人が決定したときは、委員会は当選人にその旨を通知します。
4. その他疑義が生じた場合は、その都度選挙管理委員会において決定します。

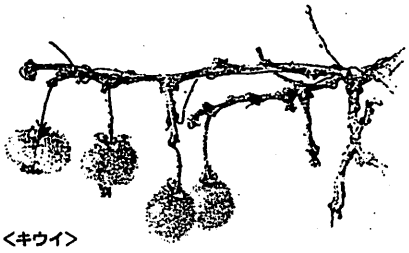
Ⅱ　理事・監事の選挙

1. 選挙人および被選挙人
   (1) 選出された評議員の中から選挙により選出します。
2. 選挙の実施および方法
   (1) 選挙は、理事・監事の定数を所定の用紙に5地区以上の評議員の中から連記します。
   (2) 投票締切　平成10年12月5日（当日消印有効）
   (3) 開　票　平成10年12月12日　午前10時より

日本助産学会第5期 理事・監事・評議員選出選挙管理委員名簿

（1998. 1　アイウエオ順）

黒田　緑 （14-1298）	所属　北里大学看護学部　0427-78-9385 〒228-0829 相模原市北里2－1－1 自宅　〒229-1124 相模原市田名1131－4 0427-62-7140
柴田 真理子 （11-26）	所属　東京都立医療技術短期大学　03-3819-1211(485) 〒116-0012 東京都荒川区東尾久7－2－10 自宅　〒338-0011 埼玉県与野市新中里2－11－39 0488-33-4991(FAX・TEL)
土岐初恵 （12-543）	所属　千葉県立衛生短期大学　043-272-2849　FAX043-272-1716 〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉2－10－1 自宅　〒265-0066 千葉県千葉市多部町758-50 043-228-2291(FAX・TEL)
豊田淑恵 （14-571）	所属　東海大学健康科学部看護学科　0463-90-2071 〒259-1100 神奈川県伊勢原市望里台 自宅　〒243-0422 神奈川県海老名市中新田117－1－506 0462-32-4902(FAX・TEL)
森　明子 （14-657）	所属　聖路加看護大学　03-5550-2266　FAX03-5565-1490 〒104-0044 東京都中央区明石町10－1 自宅　〒253-0064 神奈川県茅ケ崎市柳島1－10－32 0467-87-2212(TEL&FAX)



<キウイ>

事務局だより

＊本年は選挙の年です。年度会費の納入者のみ選挙権がありますので、選挙告示をよくお読みの上、年会費を納め投票して下さい。

＊母子保健課長の助産婦職に対する建設的なご発言は、助産婦に勇気とやる気をもたらして下さいました。期待に応えられる人材の育成が急がれます。

＊第12回助産学会学術集会では一般演題が45題です。10周年記念以降、発表演題数が増加してきました。研究の量と共に質の向上も図っていきたいものです。大勢の皆様のご参加をお待ちいたしております。